

## 【中学生の部】鹿児島県知事表彰 優秀賞

「まず考えて次に備える」

鹿児島市立坂元中学校 3年 西村 郁哉

土砂災害について考えてみました。すぐに思い浮かんだのは、1993年8月6日にあった8・6水害です。鹿児島では、土砂が線路を防ぎ、電車が通れなくなったそうです。71人の人が亡くなった大災害でした。もし、このようなことが今、起こったらどうなるのか。僕は、生き延びることができるのか。考えてみました。

よく、「自分の身は自分で守る」と言います。これはどのようなことなのか。これは、防災について、自分で考えたり、準備したりすることだと思います。人に任せるのではなく、自分で備えることが大事だと僕は思います。

まずは、考えるということです。自分の住んでいる土地は、どのような災害に遭いやすいのか、避難場所はどこか、など必要なことはたくさんあります。災害の種類、起きた場所によっても避難する場所は、変わってきます。ただ、避難場所は〇〇、何があったらここに集合ではいけないと思います。もしかしたらそこは、土砂災害に遭いやすく、近づいては危険な場所かもしれません。家族で話し合っ、逃げる場所を確認する方がいいと思います。防災マップを使って、避難場所を確認したいと思います。

そして、備えるということです。非常食や非常グッズです。僕は、小さい頃は「非常食を買うお金がもったいない」と思っていました。しかし、それはまちがった考えだと気づきました。テレビで、災害のニュースや再現ドラマを見て思いました。非常食を食べていたから助かった、ライトがあったから助かった、という例がありました。備えていれば、命は助かるのだなと思いました。非常食や非常グッズをしっかりと買って、準備するべきだと思います。

この「考える」と「備える」の2つが大事だと思います。

ある日、僕は学校に行くために通学路を歩いていました。すると、途中で工事中の看板がありました。道路に木の柱が立てられていたのです。その横には、崖がありました。この崖というのは、雨が降るといつも土砂が流れていて、道路を汚していました。「なるほど。土砂くずれを防ぐ工事をしているのだろう。」と思いました。案の定、何か月かすると、崖はセメントで固められていました。とても大きな備えだと思いました。「ここは、雨が降ったときに危険だ」と考え、工事をしてくれました。何かあってからでは遅いです。素早く対応することが大切だと思います。

このように大きな備えもあることが、分かりました。でも、子どもではできないし、すぐにできることはありません。大人が時間をかけてしていくものだと思います。

では、僕たちは何をしていけばよいのでしょうか。

簡単なことは、昔起きた災害について調べることです。災害についての恐ろしさを知り、災害は身近なものだと考えます。そうすれば、自然と非常食や非常グッズを備えると思います。そうは言っても災害の恐さは、経験した人にしか分からないと思います。そんな時は、親や祖父母に話を聞いてみるのが、いいと思います。僕の母は、8・6水害を経験していて、何度か話を聞きました。身近な人から聞く話はより身近に感じられます。

僕は、「自分の身は自分で守る」の意味がよく分かった気がします。まずは災害について考える。そして備える。これを実行していきたいと思います。また、次の世代にも、つなげていきたいです。